

<施設内研修使用資料> 入浴介助・清拭場面 編

入浴介助・清拭介助場面で なぜ感染対策が必要なのか



《標準予防策とは》

すべての人の①～④を感染の危険があるものとして取り扱う

- ①血液 ②体液、分泌物、排泄物（汗を除く） ③粘膜 ④傷がある皮膚

●利用者の身体に触れる行為

分泌物や排泄物、粘膜等を取り扱う可能性がある。

●閉鎖空間で多数の入居者が利用

呼吸器感染症等を伝播するリスクが高い。

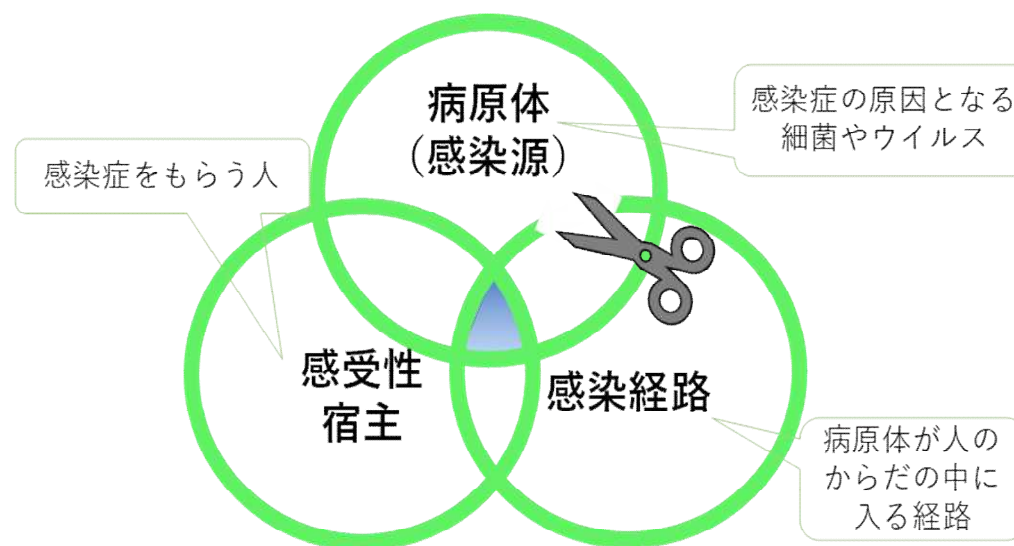
●特殊な温度・湿度環境

病原体（※）が繁殖しやすい
※カビ、レジオネラ菌 等

<対策が必要な理由>

→利用者・職員の双方を病原体から守る




感染が成立する3要因



感染経路を断ち切る！



出典：令和5年度『福祉・介護施設職員向け感染症対策研修』ケア実践者向け研修資料

入浴介助・清拭における 感染対策のポイント①

ポイント	理由
<p>①浴室環境の整備 (4～7ページ)</p> 	<p>温度・湿度などの特殊な条件から、真菌（カビ）やレジオネラ菌をはじめとする病原体が増殖しやすいため、入浴設備を清潔に保つ必要がある。</p>
<p>②入浴前の体調管理 (8～10ページ)</p> 	<p>浴室内の閉鎖空間で多数の利用者が利用する場合、呼吸器感染症が伝播するリスクを助長させる。そのため、入浴前に利用者の健康状態を把握し、入浴の可否や入浴順序を検討する必要がある。</p>
<p>③入浴スケジュール調整 (8、10ページ)</p> 	<p>複数人で一斉に浴室を利用すると、感染者*がいた場合、病原体が他の利用者や職員へと広がりやすくなる。</p> <p>*例えば、インフルエンザ、コロナウイルス、ノロウイルスなどの流行感染症</p>

入浴介助・清拭における 感染対策のポイント②



ポイント	理由
<p>④介助前後の手指衛生</p> 	<p>職員の手にも病原体が付着していると、介助場面で利用者にも病原体が付着してしまう。介助の前後は必ず手指衛生を実施する。</p>
<p>⑤洗浄する部位の順番</p>  <p>入浴介助（16ページ） 全身清拭（23、24ページ）</p>	<p>汚染の広がりや病原体の侵入により起こる逆行性感染等を予防するため、全身清拭及び機械槽前シャワー介助では、汚染の少ない部位から多い部位にかけて洗浄する。</p>

浴室環境の整備

なぜ浴室内の清掃が必要か

- ・ 温度・湿度などの特殊な条件から、真菌（カビ）やレジオネラ菌をはじめとする病原体が増殖しやすい環境にある。
- ・ 多くの利用者が利用するため、感染症が伝播するリスクが高い。



以下の衛生管理を毎日実施し、浴室内の清潔を保ちましょう。

- ① 脱衣室の清掃
- ② 浴室内の床、浴槽、腰掛けの清掃・消毒
- ③ 浴槽の水を換える
- ④ 浴室・脱衣室の換気



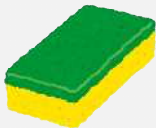


※循環型浴槽を利用している施設においては、年1回以上、レジオネラ菌属等の検査をしましょう。

介護現場における感染対策の手引き第3版（R5年9月厚生労働省老健局）より引用し一部追記





浴室環境の整備

注意点・ポイント（１）

注意が必要な箇所・ポイント	実施方法
<p>浴槽</p> 	<p>浴槽の水を換え、浴槽用洗剤で洗いましょう。洗浄後は、温水(熱水)で流し、乾燥させましょう。</p> <p>循環型の浴槽（機械浴も含む）の場合は、定期的に残留塩素濃度を測定します。測定の結果、0.4mg/L未滿となっていた場合は、塩素系薬剤を投入しましょう。</p>
<p>浴室に置いている物品</p> <p>(イス・洗面器・バケツ・ストレッチャー・石鹸置き・ボトル等)</p> 	<p>入居者が直接触れるイスや機械浴の寝台等は、毎日洗剤を用いて洗浄します。介助イスの座面、機械浴の寝台マット等、外せる部分はすべて外して乾燥させましょう。</p> <p>イスの底面や石鹸置き、ボトルの底面は特に微生物が増えやすいです。定期的に確認し、必要に応じて洗浄しましょう。</p> <p>カビが繁殖しやすい物は、定期的に次亜塩素酸ナトリウム溶液に浸漬または、熱水をかけるとカビの発生を防げます。</p>
<p>浴室清掃用具</p> 	<p>病原体の繁殖を防止するため、使用後に洗剤でよく洗った後、十分に乾燥させましょう。</p>

浴室環境の整備

注意点・ポイント（２）

注意が必要な箇所・ポイント	実施方法
集毛器・排水溝 	「ぬめり」とは、細菌等の増殖によって形成される生物膜です。集毛器は、特にぬめりが出やすい場所であるため、毎日清掃しましょう。 排水溝は、すべての入浴介助後に清掃を行いましょよう。
シャワーヘッド 	シャワー水もレジオネラ属菌等に汚染される可能性があります。年2回以上は、シャワーヘッドを分解し、清掃しましょう。
脱衣室 	ドアノブ、手すり、椅子等の利用者がよく触る箇所について、1日1回以上清掃・消毒をしましょう。 空調の吸気口は、衣類やタオルの繊維、ホコリが詰まりやすいため、性能を保つためにも定期的に清掃しましょう。
換気 	浴室・脱衣室共に入浴時間外に十分な換気を行いましょよう。空気を入れ換える目的もあるが、浴室内を乾燥させる効果もあります。

浴室環境の整備

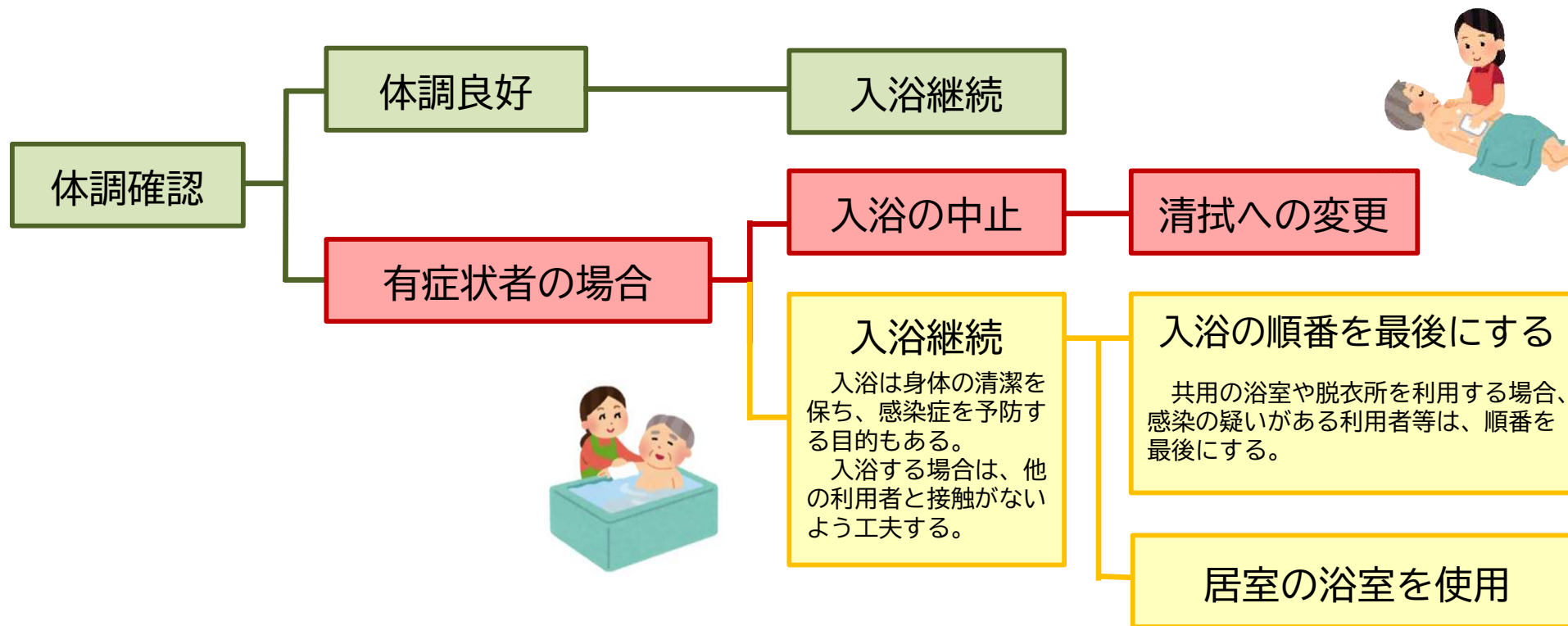
注意点・ポイント（3）

注意が必要な個所・ポイント	実施方法
入浴介助用のエプロン・長靴 	毎日洗浄し、乾燥させておく。
風呂マット 	風呂マットは、白癬菌（水虫）の交差感染の機会になり得ます。そのため、可能な限り共有のマットは使用せず、個人のタオル等に対応する事が望ましいです。 使用する場合は共有しない方法をとりましょう。

入浴介助前の体調確認

① 「入浴介助」の**その前に**！

感染拡大を防ぐため、入浴前に**体調確認は必ず実施**しましょう。職員自身の体調が悪いときは、上司等に申し出て、入浴介助を行わないようにしましょう。



入浴介助前の体調確認



② 観察ポイントと疑われる疾患例（参考）

感染症の兆候となる症状（観察ポイント例）		疑われる疾患例
熱	いつもより高くないか、低くないか	<p>【発熱】 インフルエンザ、結核 新型コロナウイルス感染症 など</p> <p>【嘔吐・下痢等の消化器症状】 腸管出血性大腸菌、感染性胃腸炎、偽膜性腸炎など</p> <p>【咳・痰・のどの痛み等の呼吸器症状】 誤嚥性肺炎、肺炎球菌性肺炎、結核など</p> <p>【発疹等の皮膚症状】 疥癬、带状疱疹など</p> <div style="border: 2px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>いつもと違う!?!を 報告しましょう</p> </div>
食欲	食欲や水分摂取の増減はどうか 吐き気や嘔吐はないか	
顔	目の充血・涙や目やにはないか 鼻水・鼻づまりはないか、顔色は良いか 耳だれはないか、耳下腺がふくれていないか 唇が黒ずんだり乾いたりしていないか	
のど	赤くなっていないか、咳・痰はないか	
皮膚	痒み・発疹・むくみ・腫れはないか	
痛み	どこが・どんなとき・どの程度痛むのか	
尿・便	血液・粘液が混じっていないか 下痢・便秘はないか、排尿の回数	
全体	ぐったりしていないか、意識ははっきりしているか、呼びかけの反応はいつと変わらないか	
(注)高齢者は典型的な症状が現れにくいことがあり、薬剤の副作用の可能性もあるので、日頃の変化や反応に注意することが重要		

介護現場における感染対策の手引き第3版（R5年9月厚生労働省老健局）より引用し一部追記

入浴介助前の体調確認



③ 感染症や症状に応じた対応（一例）

症状及び感染症	対応
発熱、嘔吐症状のある利用者	入浴を避ける。
下痢症状のある利用者	急性であれば入浴を避け、シャワー浴や清拭・陰部洗浄で対応。
皮膚疾患（角化型疥癬等）がある利用者	入浴の順番を最後にする。 または、シャワー浴や清拭・陰部洗浄で対応。
呼吸器症状（咳・くしゃみ）がある利用者 ※特にインフルエンザや新型コロナウイルス感染症の流行時期・発生地域	
血液や浸出液が出る程度の褥瘡や創部、熱傷などがある利用者	
感染性胃腸炎（ノロウイルスなど）に罹患し、症状消失から7日間経っていない利用者	症状が落ち着き、入浴できる状態であれば、入浴順番を最後にする。

※B型肝炎・C型肝炎・HIV感染症の利用者は、出血する状況がない限り、入浴で他者に伝播するリスクはないため、特別な対策は必要なく、入浴順序を変える必要もありません。

入所型高齢者施設における日常的な入居者介助のための感染対策手順書（自治医学大学）より一部転記

手順・注意すべきポイント ～入浴介助（全介助・機械浴）～

準備するもの

《防護具》

- ① 使い捨てプラスチック手袋 ※1
- ② エプロン ※2
- ③ サージカルマスク

※1 正常でない皮膚などから浸出液が出ている場合など、入浴介助に際し体液に触れる可能性がある場合には、標準予防策に準じて着用します。

※2 入浴介助用防水エプロンで可

《入浴介助に必要なもの（例）》

□ 手指消毒剤



□ 洗浄用のタオル等（個人用）



□ バスタオル（個人用）



□ 着替え



□ 洗浄用石鹸



□ ゴミ袋等



□ 入浴介助用長靴



手順・注意すべきポイント

【入浴介助（全介助・機械浴）】

順序	手順	ポイント
1	手指衛生	<ul style="list-style-type: none"> 職員が病原体の橋渡しをしないよう<u>手指衛生は必ず行う</u> 手指消毒剤は必要量（消毒の一連の流れの間に乾いてしまわない量）をとり、<u>乾くまですりこむ</u>

《手指消毒の方法》 出典：令和5年度『福祉・介護施設職員向け感染症対策研修』ケア実践者向け研修資料



①手指消毒剤をとる



②手の平と手の平をこすり合わせる



③指先、指の背をもう片方の手の平でこする（左右）



④手の甲をもう片方の手の平でこする（左右）



⑦左右の手首を包み込むようにこする（左右）



⑥親指をもう片方の手で包みねじりこする（左右）
親指の付け根も意識する



⑤指を組んで両手の指の間をこする

出典：令和5年度『福祉・介護施設職員向け感染症対策研修』ケア実践者向け研修資料

手順・注意すべきポイント

【入浴介助（全介助・機械浴）】



順序	手順	ポイント
2	準備	<p>① 利用者への声かけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションがとりにくい利用者であっても今から入浴介助をすることを説明し、安心感につなげる。 <p>② 環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱衣所・浴室の室温に留意する。 ・換気扇等で十分な換気をしながら介助にあたる。
3	防護具着用	防護具は利用者ごとに交換
①	手指衛生	装着前に手指衛生を行う
②	エプロン	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴介助用防水エプロンで可
③	サージカルマスク	<ul style="list-style-type: none"> ・「マスク着用の考え方の見直し等について」（令和5年2月10日付け厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部事務連絡）に準じて着用
④	使い捨て手袋	<ul style="list-style-type: none"> ・正常でない皮膚などから浸出液が出ている場合など、入浴介助に際し体液に触れる可能性がある場合に着用。 ・オムツを外す際や陰部を洗浄（浴室に入る前に排泄物を取り除く場合）する際に着用。

手順・注意すべきポイント 【入浴介助（全介助・機械浴）】



順序	手順	ポイント
4	入浴介助	<p>(1) リクライニング車・ストレッチャー等の上で脱衣を介助する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保温のため、利用者をタオルで覆いながら実施する。 ・オムツを着用している場合、外した際に排泄物の付着がないか確認する。 <p>重要! 入浴介助の前に利用者の陰部・臀部等に目に見える汚れ（排泄物の付着）があれば、汚れを取り除いてから入浴して頂きましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄量物の状態や陰部の皮膚の状態を確認（オムツ着用時） <p>排泄物の状態や陰部の皮膚の状態を観察することにより、胃腸炎や尿路感染症等の感染の兆候や皮膚の炎症(褥瘡等)を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済みオムツは汚染面を中にして折り込みながら外し、すぐに口を広げた状態のビニール袋へ入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・使用済みオムツを床やベッド上、ストレッチャー上等に直接置かない ・<u>使用済みオムツを持ったまま、動き回らない</u> ・下痢症状が認められる場合は、一人ずつビニール袋に入れる ・<u>便処理後は、流水下による手洗いを実施し、新しい手袋と交換しましょう。</u>

手順・注意すべきポイント 【入浴介助（全介助・機械浴）】



順序	手順	ポイント
4	入浴介助	<p>(2) 浴室へ移動し、利用者を入浴専用のストレッチャー等に移乗させる</p> <p>(3) ストレッチャーを介助しやすい高さにあげる。</p> <p>(4) 湯の温度を確認のうえ、洗髪をする</p> <p>(5) 石鹸を泡立て、全身を洗淨する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔・頸部→上肢→胸部→腹部→背中→下肢→陰部・臀部の順で洗淨 ・皮膚トラブルを予防するため、<u>石けん成分は十分に洗い流す。</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・陰・臀部は、傷つきやすい皮膚部分なので、泡で洗淨しましょう。 <p>【陰部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿道口等への病原体の侵入による起こる逆行性感染（尿路感染症、膣炎、外陰炎等）を予防するため、尿道口(汚染が少ない)→(膣口)→肛門(汚染が多い)の順で洗う <p>【臀部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚染が少ない上臀部→下臀部→臀裂の順で洗う </div> <p>※浴室の中が、排泄血液や体液（傷などからの浸出液や便を含む）で汚染された場所は、手袋・マスク・エプロンを着用し、洗剤で汚れを洗い流した後、0.05-0.1%（500-1,000ppm）程度の濃度の塩素系消毒薬を接触させ、10-15分程おいて水でよく流しましょう。</p>

手順・注意すべきポイント

【入浴介助（全介助・機械浴）】



順序	手順	ポイント
4	入浴介助	<p>(6) 利用者をストレッチャーごと浴槽内へ移動する ※機械の種類に応じて方法が異なるため、各施設の方法に応じて実施。</p> <p>(7) 利用者の入浴中、湯加減や体調を確認する</p> <p>(8) 利用者をストレッチャーごと浴槽から出す</p> <p>(9) シャワーでかけ湯をする ・シャワーの飛沫が介助者の顔や目に入らないように注意する</p> <p>(10) 手袋（着用している場合）を外し、手指衛生をおこなう ※入浴介助と寝衣の着衣介助は、原則、別の人物が行うことが望ましい。 ※やむを得ず1人で行う場合は、必要に応じて新しい手袋を着用する。</p> <p>(11) バスタオルで体を覆いつつ、水滴を拭き取る ・水分が残った状態は細菌が繁殖しやすくなるため、<u>水気を拭き取る</u> ・皮膚を傷つけないように押しがきで拭き取る。</p> <p>(12) 入浴専用のストレッチャーからリクライニング車・ストレッチャー等に移乗させる</p> <p>(13) 脱衣室に移動し、着衣を介助</p>

手順・注意すべきポイント

【入浴介助（全介助・機械浴）】



順序	手順	ポイント
5	防護具脱衣	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアが終わったらすぐに脱衣 ・利用者ごとに防護具は交換
①	使い捨て手袋	<u>手袋が一番汚染されているため、最初に外す</u>
②	エプロン	
③	サージカルマスク	
④	手指衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・目に見える汚れがある場合には、<u>必ず石けんと流水による手洗いを実施</u>
6	終了の声かけ	
7	居室に戻る	
8	浴室の清掃等	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃前には、手指衛生をし、新たに使い捨て手袋を着用する。 ・脱衣室と浴室の清掃を実施する ※浴室の環境整備を参照（4～7ページ） ・利用者が使用したタオルについて、便や血液等で汚染されていれば、取り除いてから洗濯・消毒をする。

手順・注意すべきポイント

～全身清拭～

準備するもの






《防護具》

- ① 使い捨てプラスチック手袋
- ② 使い捨てビニールエプロン
(必要に応じて)
- ③ サージカルマスク
- ④ アイシールド (必要に応じて)

ポイント

大量の下痢や陰部洗浄を同時に行う場合は②④も着用します。

《排泄ケアに必要なもの(例)》

- 手指消毒剤 
- 清拭用濡れタオル (2~3枚)
- 陰・臀部用タオル1枚 
- 石鹼等の洗浄剤 (陰部洗浄時)
- 陰部洗浄ボトル (陰部洗浄時)
- バスタオル 
- 着替え (寝衣・下着オムツ等) 
- ビニール袋 

手順・注意すべきポイント (全身清拭)



順序	手順	ポイント
1	準備	① 利用者への声かけ <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションがとりにくい利用者であっても今から全身清拭をすることを説明し、安心感につなげる。 ② 環境整備（プライバシーの保護） <ul style="list-style-type: none"> 室温に留意する カーテンやドアを閉め（ドアを閉められない場合は、入り口からベッド上が見えないように衝立を置く等）、プライバシーに留意
2	防護具着用	防護具は利用者ごとに交換（P23参照）
①	手指衛生	装着前に手指衛生を行う 「汚染したかも」と思った場合は、その都度石けんと流水による手洗いを行う
②	使い捨てエプロン	大量の下痢や陰部洗浄を同時に行う場合に着用
③	サージカルマスク	「マスク着用の考え方の見直し等について」（令和5年2月10日付け厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部事務連絡）に準じて着用
④	アイシールド (又はフェイスシールド)	大量の下痢や陰部洗浄を同時に行う場合に着用
⑤	使い捨て手袋	<u>2重手袋はしない</u> （着脱時に汚染する可能性が高いため）

手順・注意すべきポイント (全身清拭)



出典：令和5年度『福祉・介護施設職員向け感染症対策研修』ケア実践者向け研修資料

手順・注意すべきポイント (全身清拭)



順序	手順	ポイント
3	全身清拭	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 作業を通してこまめに声かけをし、配慮する ◆ 全身清拭を行いながら皮膚の状態を観察する ◆ こまめにタオルの面を変えて拭く <p>(1) 顔・頸部を拭く</p> <p>(2) 利用者の寝衣を脱がせる ・羞恥心や保温に配慮し、皮膚の露出をできる限り少なくする。</p> <p>(3) あたためたタオルで全身を清拭する ・上肢→胸部→腹部→背中→下肢→陰部・臀部の順で清拭 ・排泄量物の状態や陰部の皮膚の状態を確認（オムツ着用時）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・排泄物の状態や陰部の皮膚の状態を観察することにより、胃腸炎や尿路感染症等の感染の兆候や皮膚の炎症(褥瘡等)を知る</p> </div> <p>・使用済みオムツは汚染面を中にして折り込みながら外し、すぐに口を広げた状態のビニール袋へ入れる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・使用済みオムツを床やベッド上等に直接置かない ・<u>使用済みオムツを持ったまま、動き回らない</u> ・下痢症状が認められる場合は、一人ずつビニール袋に入れる ・便処理後は、手指衛生を実施し、新しい手袋・エプロンと交換しましょう。</p> </div>

手順・注意すべきポイント (全身清拭)



順序	手順	ポイント
3	全身清拭	<ul style="list-style-type: none"> ・陰部を清拭する際は以下の点に注意する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・陰・臀部専用のタオルを1枚用意し、使用する。 ※他の箇所を拭いたタオルは使用しない。 ・陰・臀部は、傷つきやすい皮膚部分なのでゴシゴシ拭きではなく<u>押し拭き</u> <p>【陰部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿道口等への病原体の侵入による起こる逆行性感染（尿路感染症、膣炎、外陰炎等）を予防するため、尿道口(汚染が少ない)→（膣口）→肛門(汚染が多い)の順で清拭する。 <p>【臀部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚染が少ない上臀部→下臀部→臀裂の順に清拭する。 <ul style="list-style-type: none"> ・陰部洗浄を実施した場合、洗浄後は、手袋を外し手指衛生を行う。 </div> <div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷や褥瘡の処置を行う場合は、新しい手袋に交換してから処置を行う。 </div> <p>(4) 清潔な寝衣を着せ、整える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背部のしわがないように整える。
4	終了の声かけ	

手順・注意すべきポイント (全身清拭)



順序	手順	ポイント
5	防護具脱衣	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアが終わったらすぐに脱衣 ・利用者ごとに防護具は交換
①	使い捨て手袋	<u>手袋が一番汚染されているため、最初に外す</u> (P27参照)
②	使い捨てエプロン	(P26参照)
③	アイシールド (又はフェイスシールド)	
④	サージカルマスク	(P27参照)
⑤	手指衛生	・目に見える汚れがある場合には、 <u>必ず石けんと流水による手洗い</u> を実施

防護具の脱衣方法

①手袋：表面「汚染面」／裏側「非汚染面」

出典：令和5年度『福祉・介護施設職員向け感染症対策研修』ケア実践者向け研修資料



手首部分をつかみ
裏返すように外す



外した手袋をにぎる



反対側の手袋と手首
の間に指を差し込む



裏返すように外す

②エプロン：表面「汚染面」／裏側・後ろ「非汚染面」



首の後ろ部分を
ちぎる



汚染面に触れない
ように前に下ろす



後ろ側から裾を
すくい上げる



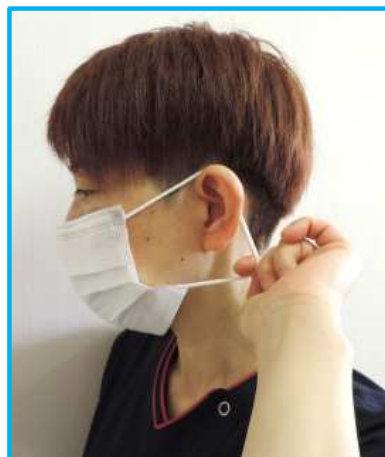
汚染面が内側になる
ように腰まで丸める



前に引っ張り
腰ひもを引きちぎる

防護具の脱衣方法

④マスク：表面・裏面「汚染面」／ゴム「非汚染面」



ゴムの部分をつかみ表面に触れないように静かに外す

出典：令和5年度『福祉・介護施設職員向け感染症対策研修』ケア実践者向け研修資料

まとめ



- 浴室内での感染症伝播を防ぐため、入浴前に利用者の**健康状態を把握し**、入浴の可否や入浴順序を検討しましょう。
- 浴室は、真菌やレジオネラ菌等の病原体が増殖しやすいため、**入浴設備の清潔**を保ちましょう。
- 利用者の身体を洗浄する際は、**汚染の少ない部位から洗浄し**、汚染を広げないようにしましょう。
- 職員が病原体の橋渡しをしないよう、**介助の前後には必ず手指衛生**を実施しましょう。
- 汚染したオムツを外した後や陰部洗浄した後は、手袋を外し手指衛生をしましょう。